

表彰トロフィーデザイナー紹介

アート・グラス・クラブ Art Glass Club



(左) 木下良輔氏 (右) 新田五月氏

古代からあるガラスの製法である鑄造ガラスの制作スタジオ。石膏などの型に粉碎したガラスを充填し、電気炉 (kiln キルン) で焼成して作る製法はキルン・ワークとも呼ばれ、宙吹きガラスとは趣の異なったガラス作品を生み出す。

メンバーは代表の木下良輔氏を含むガラス作家 4 名。

神奈川県丹沢山系の山すその町にあるスタジオで、教室の開催や、建築作品の請負制作をしながら、個々の創作活動にも意欲的に取り組み、鑄造ガラスの世界を広げるべく活動が続けている。今回のトロフィー制作の中心となった新田五月氏は、淡路島出身。震災当時は 11 歳だった。

《トロフィー制作にあたり》

受賞者の皆様、ならびに関係者の皆様、本日の授賞式典おめでとうございます。

縁あって、トロフィー制作に関われますことを毎年誇りに思います。

このトロフィーは、的確な判断を求められるシステム技術者やオペレーターの手、どの様な土壌であっても明日に伸びる若い生命力、倒れた弱者に灯される希望のたいまつ、といったイメージを元に“人の心の優しさ”を淡い色彩で表現しました。

本日の式典の成功が、未来に向けて明るい光となる事を、遠方よりお祈り致しております。

アート・グラス・クラブ代表 木下良輔